

名古屋電気学園同窓会
事務局
名古屋電気高等学校
同窓会機関紙

名古屋電気学園同窓会
事務局

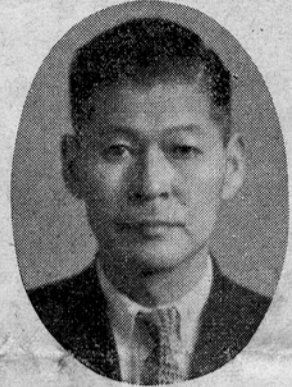
名古屋千種区若水町一の一八
0012-6639

編集発行人 亀田俊明



卒業生諸君に望む

理事長 後藤 鉦 二



「科学技術の振興が重要な課題として、教育界をゆずりはじめたのは昨年の夏ごろ。これは「空前の理工科ブーム」の標題で最近の中日紙に載った記事の一コマであります。手近な一例として引きまわりましたが、今や「科学技術の振興の「重要性」は、国民的の輿論であり、常識でさえあります。然る時回顧すれば、私の先考が科学技術者養成の急務を痛感して、科学の尖端電気専門の学校を挺身創立したのは大正元年—今を遡ること約半世紀、即ち五十年に垂んとする、我が国電気界の草昧時代乃至月白、曙の時代でありました。私は、暗に今日に備うるかの如き、この先見と愛國とに敬意を払わずには居られません。同時に、当然の荊棘、堅氷の険路の覚悟と、惨憺たる拮据経営の苦心をも偲ばずには居られません。私は尊き伝統として此の「鉄の遺志」「焔の遺業」を継承、終始一貫して電気技術者養成に精通し、卒業生は一万を超え在學生は二千近くを擁し、拡張に拡張を続けた敷地には鉄筋コンクリート校舎の聳立する今日の盛況にまで導いたのであります。私は学園内外の協力者

各位と共に感慨なきを得ないのであります。更には顧みると半世紀間、産業界への貢献を刻みつつ、それらを背後の功績として、現時非常時のため営々万全の準備に傾倒してきたかたちもなっていますので、「一時来れり」の感深きものあるを認めません。「今日の科学技術振興の要望に直ちに応じ得る学園」の矜持を誰が認めずに居ましようか。

学園外観の壮備は今も進められつつありますが、固よりこれは学園発展の一表徴で、人は之に眩惑せられず、学園の実質—即ち設備、教授、実習、訓育からクラ

親密と結束の堅きを特色とする本同窓会も、母校の発展と雁行して拡大充実しつつあるは御同慶の至りと謂うべきですが、此の機を更に一転機として百尺竿頭弥益す結束と伸展とが望まれます。

卒業生諸君の職域に於ける健在を祈るとともに、強力なる後援を期待して止みません。

母校学園理事長後藤鉦二学長は、四年前ロンドンで行われた第二十一回世界卓球選手権大会に、日本選手団々長として渡英し、四種目優勝の偉業を成し、四種目世界の注目をあび、スポーツ使節としての大任を果たされたことは記憶に新しいが、昨年一月より一カ月間フィリピンのオーグスト・

ルシアノ判事の招待により渡比、比国の学校施設並びにスポーツ施設の視察をかねて日比親善民間使節として両国間の理解と友情を一段と深められた事も、我々の新しい話題の一つである。

その渡比中に約束された柔道畳五十枚を比島柔道協会に寄贈した後藤学長は、協会長ホセ・ルクバン氏の招待を受け、全フィリピン柔道選手権大会に森副知事と共に昨年末に再度渡比、約一カ月間の旅程を終えて帰朝された。

二回に亘る学長の渡比は、両国間の理解と友愛を深め、日比の技術文化提携が具体化するの近い将来でありましょう。

母校の日々隆々たるにひもは良し悪しにつけ自己今日までつたない歩みを続け、兄に對し厚き感謝の意を表してきた同窓会へ寄与して(二・一一)

温故知新
加藤勇吉(第四回卒)

出来誠に御同慶の至りであると思ふ。後藤会長としてはおそろしく、幸いに母校と同窓生との心の架け橋である「エレキ」も年四回定期刊行され心づながりを確保したきること、私どもは拡充御意図と推せられる。私どもは拡充

を期待する次第である。向う下された役員並びに会員諸

創立五十周年めざして
同窓会も準備

先覚後藤三郎先生が、大正元年に磐石の礎石を布かれて以来、しんしんと伸張して止まない我が学園は昭和三十七年には創立五十周年を迎える。天地と共に栄える学園の寿令五十歳は羽翼完備した壮者の勇姿をしておきます。

思わせる。学園の一大記念祝典に呼応して、同窓会も大奮起すべきは当然でありましょう。準備は着々と進められつつあります。詳細は何れ発表されますが、一万余員挙つての協力を希望しておきます。



創立者 後藤三郎先生

学長、再度マニラへ
日比親善さらに深む

柔道畳五十枚を比島柔道協会に寄贈した後藤学長は、協会長ホセ・ルクバン氏の招待を受け、全フィリピン柔道選手権大会に森副知事と共に昨年末に再度渡比、約一カ月間の旅程を終えて帰朝された。

二回に亘る学長の渡比は、両国間の理解と友愛を深め、日比の技術文化提携が具体化するの近い将来でありましょう。

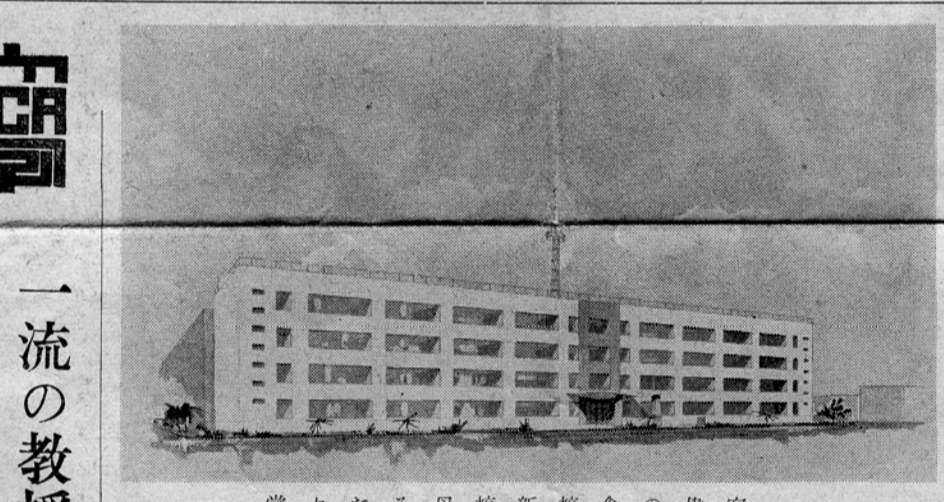
一流の教授陣容
勤労学徒に最適

伝説に輝く母校名電、高圧製作所等の現電に短期大学が誕生して、もはや四年、職技術者によって日夜懇切なる講義実験がなされている。

特筆すべきは、授業の昼夜通し制で夜屋同じ講義が行われているから勤労学徒にとっては正に最適である。加うるに卒業生には電

スマートな新校舎
教室にはテレビ設備

新校舎はスマートな鉄筋コンクリート四階建てで、一階に事務局長、応接室、図書室、二階に学長室、貴賓室、職員室をおき、全階を通じて教室二十六の宏大なもの。



堂々たる母校新校舎の偉容

教室には新式のワイド黒板と二面の補助黒板、更には現在大いにその効果をあげつつある校内放送設備がテレビと共に正面に置かれて、生徒諸君の学習活動を一段と向上させます。

また屋上の鉄塔はその偉容を誇り、此処から流れ出るミュージックサイレンの学園歌メロディーは学生生徒の心に豊かな情操を培うにちがひありません。

その他、屋上は小運動場を利用され、取りつけられた投光器の照明は校庭を明るく照らしだして、夜間生諸君の体育実技を更に充実させましょう。

母校実習館の屋上に立つアンテナ塔は矢田川堤や中央線の車中からも望まれ、正に「名電此処にあり」といふところ。

その塔から始めてJJ3Gの電波を発射した時、係の先生や通信科生徒諸君もさすがに緊張してマイクを握りつぶさんばかり。放送を終ってホッとした顔は「誰か電波をキヤッチしたろうか」の心配と期待で一杯。

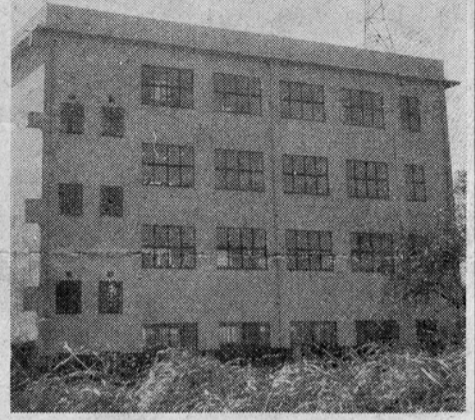
△ところが反響は意外に大きかった。翌々日市内のアマ無線から「感度良好」というカードが舞い込んだのを皮切りに、東京、山形、更には北海道と続々カード到着、係員一同大喜びで今度はアナウンスの練習に大奮、なにはともあれ、幸先よいスタートである。



母校の発展を祝す

- 株式会社 美濃濾紙工業所 所主 井戸 杏三 (第一回卒)
- 名古屋市中村区本町一ノ七〇 電話 西局 四三〇〇
- 株式会社 吉岡電気工業 株主 井戸 杏三 (第一回卒)
- 名古屋市中村区今池町四ノ番 電話 千種 三八四・二四六一
- 株式会社 中電機製作所 取締役社長 石原 又造 (第十六回卒)
- 名古屋市中区和区白金町六ノ三 電話 瑞穂 一九四三・一九四四・一九四九・一九五二
- 株式会社 丹羽電気工業所 代表者 丹羽 銀重 (第十七回卒)
- 名古屋市中区新栄町八ノ五 電話 東局 四四七・六
- 株式会社 岩谷物産 常務取締役 佐野 利雄 (第十九回卒)
- 名古屋市中区志摩町一ノ四八 電話 西局 五五・四一〇・一四
- 株式会社 岩間製作所 取締役社長 岩間善之助 (第二十二回卒)
- 名古屋市中区西宮町一ノ二二 電話 南局 二八〇・六・二八〇九
- 株式会社 守谷商会 取締役 大矢 覚明 (第二十二回卒)
- 名古屋市中区新栄二ノ六 電話 中局 三〇三・三三三・二八八一

躍進する母校名電



近代的な実習館の全景

完備された実習館

屋上にはアンテナ塔

市電 これこそ、母校名電が誇る都通二電気技術研習の殿堂、実習丁目で館なのだ。

昨年四月初旬に完成をみて東へたこの実習館では、日夜短大や高校の学生生徒諸君が緑の若水が丘に、実験設備は各階六十坪の四階建てとところせましと並べられている。

次に建物内部の主な設備を案内しよう。

- △一階 強電実験室 三台
- 交流電動発電機
- △二階 弱電実験室
- 誘導電圧調整器 三台
- 同期電動機
- 交流整流子電動機
- △三階 明るく大製図室
- △四階 電気通信科実験室
- 自動交換器
- 無線実験局 JJ3G
- △屋上 アンテナ塔

先輩が実験指導

充実した実験設備には、経験豊かな指導者が不可欠である。この点、母校の指導メンバーは完璧に近い。

球部員諸君がおどろいて下されば良いと思ひながら昔の野球部の御便りを致しました。

学校はもちろん東新町でグラウンドは軒々と変わりましたが大体今池の自動車学校でした。

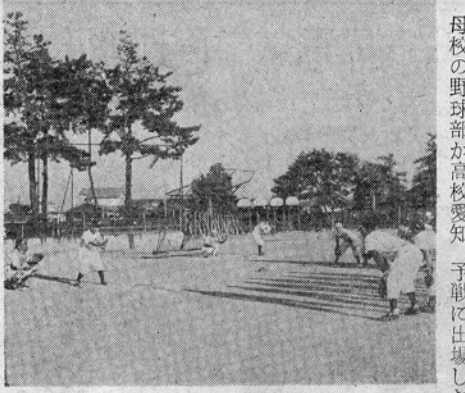
一年坊主は自転車にバックネット、ベースパン、グローブ等の用具を積んで走りまわります。自動車学校の片すみへバックネットを立て、ベースパンを配ってラインを引いていると、二年生がぼつぼつやってきます。

本科生(三年生)はゆうゆうと電車できます。

部長は後藤先生です。おおよそ実力の程は御想像が

野球部の思い出

寄稿 岡崎支社 関山 敏一



期待される母校の野球部

母校の野球部が高校愛知予戦に出場したのを知って喜びと懐旧の念にたえませぬ。私は昭和七年から九年の野球部員です。

音信のない昔の部員方が想い出して下さり、新しい野

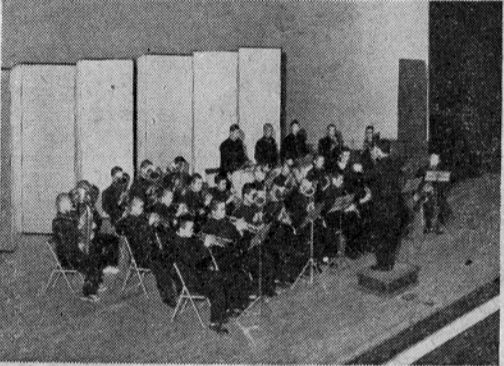
伝統を誇る運動部

音楽部も進出

昨年一昨年も、母校の後藤学長は、国体愛知県選手団の副団長として各地に健闘された。この勇將の下に弱卒なし。母校のクラブ活動は県下でも屈指に値する。

△卓球部
先輩の築き上げた伝統を堅持する名門卓球部は、三十二年度全国高校卓球選手権大会に見事優勝、これで六度目の栄冠だが全国的に卓球技術の向上した中でこの年度の戦績は特に各方面から賞讃されている。

△フリスビー部
放課後、母校を訪



名古屋市公会堂で演奏中の音楽部

同窓会活動の中心に

母校に奉職している私も卒業生一同は、二月九日同窓会名電学園支部としての活動について色々協議しました。

その結果、今後は同窓会の中心として活発な各種行事、例えば電検講習会、記念講演会などを計画実行すると同時に、後輩の教育指導に一段と情熱をかため、会員各位の御期待にこたえようと申合せました。

なお支部会員は次の通りです。

- 名電支部 伊藤 鎮(一回)
- 伊藤 鎮(一回)
 - 亀田 俊明(六〇回)
 - 小島純一郎(五九回)
 - 磯部 武(六一回)
 - 古田 和義(六三回)
 - 野牧 一雄(七七回)
 - 高木 信一(八〇回)
 - 安江 勇(八七回)
 - 高橋 勝男(徳大二回)
- 中電岡崎支部
- 昨年足助町香風溪内錦荘にて中部電力岡崎支社第五回同窓会が数十名参加の下に開かれ、母校より後藤学長、同窓会より大矢覚明君が列席されました。
- 田勤君(豊川営業所長)が

後藤淳先生紹介



理事長後藤淳先生は、昭和二十八年三月、名大工学部電気工学科を卒業、同年四月から三十二年三月まで名大工学部大学院に在りて放電現象を研究せられた。学を終えてからは、中央製作所の研究課に勤めておられたが、昨年九月から本学園に赴任せられた。白哲温雅、秀才型の好学究。御長男泰之(やすゆき)君が本年、すなわち、昭和三十三年二月二日に誕生せられて、理事長一家のお慶びは無かしと察しられる。

会員短信

近藤純雄君(五九回)は中部電力三重変電所から桑名変電所へ転勤されました。

黒田広重君(五九回)はNHK名古屋中央放送局から東京へ転勤されました。なお同君の新居は東京都世田谷区経堂町四八五です。

野田稔君(七七回)は元気で久間発電所に勤務中ですが、母校職員生徒見学の際は、すすんでガイドを引受けられ、丁寧に諸設備の説明をされたので、見学者一同非常に感激しました。

長瀬光穂君(七九回)は今度港区港栄町の築港変電所へ転勤になりました。

おつきのことと思ひます。然し何と云っても少年にはあこがれのスポーツ、一生懸命にボールをひろいまわります。

夕もやが忍びよって豆腐屋のラッパが聞えてくる頃、先生がおこつて下さったミタランの味は今でも忘れません。

任巻はクラス対抗戦で各級毎に応援歌をつくって猛烈に競い合ったものです。名電同窓会を名乗って巷の野球大会に出場しましたが残念ながら優勝の記録はあがりません。けれども名古屋軟式野球界に小雲を巻き起したことはたしかです。では母校の野球部員諸君の御健闘を祈ってペンをおきます。(四二回)

四十名メンバーの大グループに発展した。このほか交通によって世界の各地の青年と友情を結ぶ郵便の会や、部員一〇〇名を擁してラヂオ、テレビなどの組立研究にいそむ工作部などがある。

最後に各部の陣頭に立つてリードしておられる指導先生を御紹介しよう。

- △野球部 鈴木 隆氏
- △柔道部 吉田 武氏
- △剣道部 安藤 兵一氏
- △音楽部 神納 照美氏

三七回生が卒業三十年の同窓会開く

宮部一君(名鉄株式課長)、菅沼芳申君(電々公社施設課長)ら第二十七回卒業の諸君四十名は、昨年十月、伏見荘で卒業三十年を記念した同窓会を開催、母校から岩井先生が出席された。

七七回生のクラス会

高橋第二回(七七回)の卒業生三十名は、二月八日鍋屋町の料理亭川由にて同窓会を開催、母校より水野先生が出席になった。

八六回生のクラス会

昭和三十一年に定時課程を卒業した八六回生三十余名は、二月八日西大須伏見荘でクラス会を開催、母校から佐藤先生、同窓会より亀田君が出席されました。

中電岐阜支部

一月十一日午後、岐阜市西野町、料亭柿松に三三回生の柴山甚松君(岐阜支店配電課長)、二六回生の吉林貞次郎君(同線路課長)ら、支店管内の卒業生二十数名が参集して、盛大な同窓会を開きました。

後藤淳先生紹介

理事長後藤淳先生は、昭和二十八年三月、名大工学部電気工学科を卒業、同年四月から三十二年三月まで名大工学部大学院に在りて放電現象を研究せられた。学を終えてからは、中央製作所の研究課に勤めておられたが、昨年九月から本学園に赴任せられた。白哲温雅、秀才型の好学究。御長男泰之(やすゆき)君が本年、すなわち、昭和三十三年二月二日に誕生せられて、理事長一家のお慶びは無かしと察しられる。

学生・生徒入学案内

名古屋電気短期大学

- 電気科第一部(昼間) 四〇名
- 電気科第二部(夜間) 四〇名
- 願書締切 試験日前々日迄
- 試験日 第一期 一月一日 第二期 一月一日
- 名古屋電気高等学校
- 全日制(昼間部) 電気通信科一〇〇名
- 定時制(夜間部) 電気通信科一〇〇名
- 定時制(夜間部) 電気通信科一〇〇名
- 試験日 三月九日
- 募集人員 五〇名
- 願書締切 試験日前々日迄
- 詳細にわたっては左記事務局にてお問合せ下さい

名古屋電気学園事務局

名古屋千種区若水町一ノ八

電話 〇〇12・6639